

ソーマダッタの息子 (Saumadatti) =  
別名ブリシュラヴァス (Bhurishravas)  
1章7節

ソーマダッタの息子は、クル王家の血筋を引く名家の戦士で、戦場においても振る舞いが端正で高貴  
ブリシュラヴァスは、サティヤキに致命的な傷を与え、気絶させたが、その瞬間、アルジュナがブリシュラヴァスの腕を切り落とした。  
「私は武器を捨て、戦士としての義を守っていた。それを不意打ちで断たれたなら、もう私は何のために生きるのか。」  
そして彼は、戦いを放棄し、座禅を組んで瞑想に入り、死を受け入れた。  
この場面は、『マハーバーラタ』の中でも“戦士の名誉と悲しみ”を象徴する名シーンです。

ジャヤドラタ (Jayadratha)  
1章7節

ドゥルヨーダナの妹 ドゥシュラーラーと結婚 (クル王家の義弟)  
傲慢さ、復讐心、魔術的な力を得た存在。  
かつてドラウパディーを誘拐しようとしたジャヤドラタはドラウパディーを無理に連れ去ろうとする。  
ビーマとアルジュナによって捕らえられた彼は、命を助けられるものの、屈辱と怒りを抱えるようになる。  
この事件が、彼の中に「パーンダヴァへの復讐心」を芽生えさせた起点。屈辱 → 復讐 → 悲劇 → 更なる怒り → 終焉